

◆◆◆ 2009 年 夏の熱中症について

おもにヒートアイランド現象の影響で、都市を中心に、夏の高温に伴う健康被害が問題となっています。中でも、熱中症に対する関心が近年大きくなっており、当センターは国立環境研究所の委託を受け、同研究所の熱中症予防の啓発情報サイトに対し、「暑さ指数」などの観測データ等の提供を行っています。

今年の夏は、エルニーニョ現象などの影響で、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱く、北日本から西日本にかけて、曇天や雨天が多く日照時間が少なくなりました。また7月末に中国・九州北部で豪雨が発生したり、東北・北陸・中国地方で梅雨明けが特定できないなど、天候不順の夏となりました。

ここ数年、連日の暑さと高齢者を中心とした熱中症の発生がマスコミを賑わせていましたが、今年の夏は、例年に比べると熱中症の発生数が少ない夏となりました。昨夏から、消防庁が全国の熱中症による救急搬送者数を取りまとめ、その速報を報道発表しています(http://www.fdma.go.jp/pdf/2009/1002/01_houdoushiryou.pdf など)。それによりますと、今年の7月から8月にかけて熱中症による救急搬送者数は、全国で11,789人で、昨年の同時期の21,604人に比べ大幅に減少しました。このうち、重症患者(死亡を含む)は2.8%、中等症の患者は34.4%、軽症の患者は61.6%で、昨年とほぼ同様の割合でした(重症度分類は「熱中症環境保健マニュアル」http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.htmlを参照ください)。

夏(6~8月)の地域別平均気温									
年	北日本	東日本	西日本	南西諸島	年	北日本	東日本	西日本	南西諸島
1971	-0.7	-0.1	0.1	0.6	1991	0.3	0.4	0.3	1.0
72	0.5	-0.3	-0.5	-0.4	92	-0.3	-0.4	-0.7	-0.3
73	0.5	0.2	0.2	-0.8	93	-1.8	-1.5	-1.2	0.5
74	-0.5	-0.6	-0.8	-0.7	94	1.4	1.6	1.4	0.3
75	0.2	-0.1	-0.1	-0.5	95	0.1	0.4	0.3	0.0
76	-1.0	-1.1	-1.0	-0.7	96	-0.6	0.2	0.4	0.4
77	-0.3	-0.5	-0.2	0.1	97	-0.1	0.3	0.2	-0.5
78	2.0	1.4	0.9	-0.4	98	-0.6	0.3	0.8	0.9
79	0.2	0.4	0.1	-0.2	99	1.6	0.7	0.0	0.1
80	-1.1	-0.8	-0.9	0.6	2000	1.4	1.0	0.7	-0.1
1981	-0.7	-0.3	0.1	-0.3	2001	0.0	1.0	0.9	0.9
82	-0.3	-1.2	-1.1	-0.6	2	-0.4	0.9	0.7	0.2
83	-1.7	-0.6	-0.1	0.2	3	-1.2	-0.6	-0.3	0.6
84	1.4	0.7	0.7	0.1	4	1.0	1.3	1.2	0.1
85	0.4	0.2	0.2	-0.6	5	0.8	0.8	0.9	0.2
86	-1.0	-0.6	-0.2	0.0	6	0.5	0.4	0.8	0.4
87	0.0	0.5	0.0	0.0	7	0.7	0.4	0.5	0.6
88	-0.6	-0.6	-0.3	0.6	8	0.0	0.5	0.6	0.6
89	0.0	-0.7	-0.6	0.0	9	-0.3	0.1	0.2	0.4
90	1.1	1.1	1.2	0.3					

表：夏季の地域別平均気温

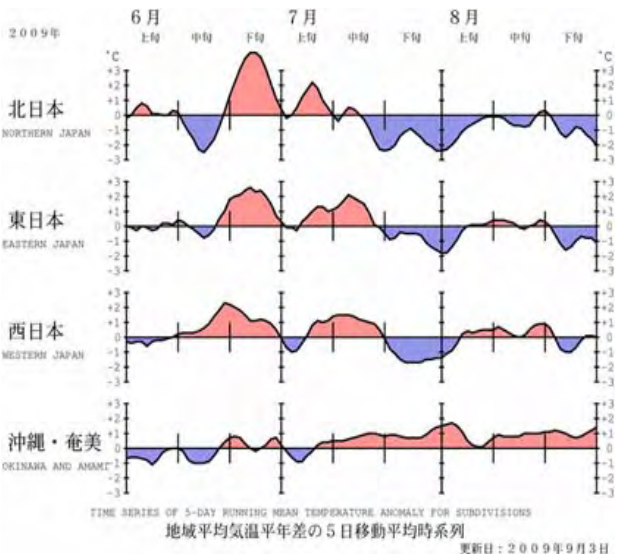


図1：平成21年夏の気温変化

東京の気温と熱中症による救急搬送者数の関係で、少し詳しく今年の夏の熱中症をみてみます。今年、7月中旬に一時気温の高い時期がありましたが、2008年7月や2007年8月のように高温が継続した期間はありませんでした。しかし、7月15日・16日（東京の最高気温はそれぞれ33.6℃、34.2℃）や、7月26日（最高気温33.8℃）のように、急に気温が高くなった日には、体が暑さに慣れていないため、熱中症の救急搬送者が増加しており、冷夏や天候不順の夏でも、多くの熱中症患者が発生することが再確認されました（図2参照：国立環境研究所の熱中症患者速報および気象庁観測データより作成）。

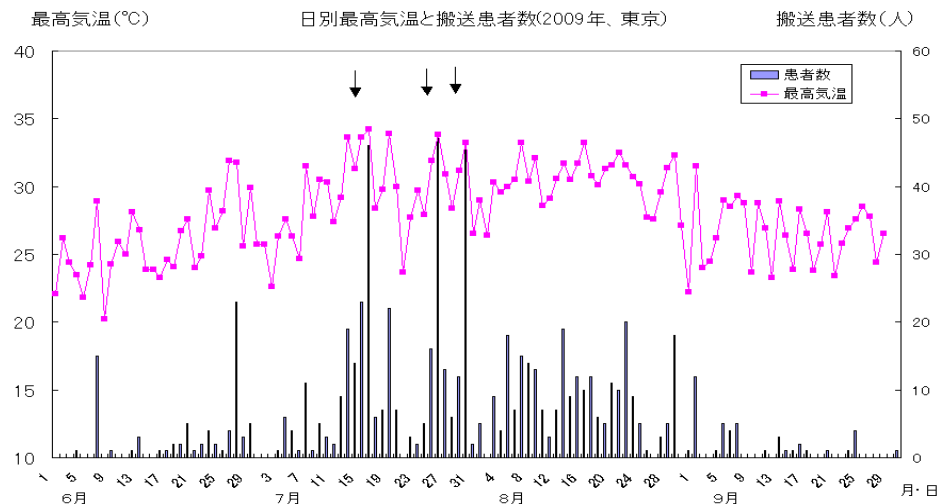


図2：日最高気温と熱中症による救急搬送者数(2009年)

また、国立環境研究所の熱中症患者速報ページ (<http://www.nies.go.jp/health/HeatStroke/spot/index.html>) の統計データによると、今年の熱中症による救急搬送者数の累計はほぼ2004年と同程度でした。熱中症が多く発生する7月から8月の平均気温は東京では29.7℃でしたが、2004年は32.1℃で、また、患者数は多い順に2007・2008・2005年と続いており、以前に比べ熱中症の搬送者のベースが高くなっています（図3参照：国立環境研究所ホームページより）。この傾向は大阪や福岡などほかの都市にも見られます。

今年、例年に比べ熱中症患者は比較的少ない年でしたが、新潟県や秋田県などで、車内に放置された小さな子供の熱中症事故が発生するなど、まだまだ熱中症に対する理解不足による事故が発生しており、少しでも多くの人々が、気象と健康について情報に触れることができる機会を提供できるよう、取り組みを進めていきたいと考えています。

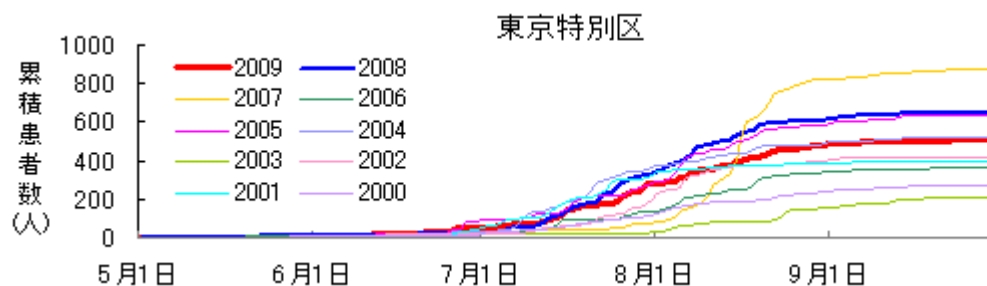


図3：各都市の熱中症による搬送者数

(財団法人気象業務支援センター振興部情報開発室長 登内道彦)